

平成 30 年度環境測定分析統一精度管理北海道・東北ブロック会議 議事録

日 時	平成 31 年 3 月 8 日(金)13:30～16:45
場 所	宮城県庁行政庁舎 1701 会議室
出席者	別添・出席者名簿のとおり (36 名)
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ 宮城県保健環境センター 所長 宮城 英徳</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 環境測定分析統一精度管理調査について 環境省 水・大気環境局総務課環境管理技術室 室長補佐 望月 敦史氏</p> <p>(2) 平成 30 年度環境測定分析統一精度管理調査結果について (一財) 日本環境衛生センター環境事業第二部 課長代理 佐々木 秀輝氏</p> <p>(3) 環境測定分析における留意点及び精度管理について</p> <p>①模擬排水試料に関する報告 国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質情報研究部門 地球化学研究グループ長 岡井 貴司氏</p> <p>②模擬大気試料に関する報告 環境省環境調査研究所 教官 岩村 幸美氏</p> <p>③底質資料 (PCB)に関する報告 国立研究法人国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 主任研究員 山本 貴士氏</p> <p>④底質資料 (水銀)に関する報告 国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質情報研究部門 地球化学研究グループ長 岡井 貴司氏</p> <p>(4) ディスカッション 座長：宮城県保健環境センター 大気環境部長 佐藤 健一 助言者：有識者，環境省，調査実施機関 (日本環境衛生センター)</p> <p>4 閉会 宮城県保健環境センター 副所長 泉澤 啓</p>

<p>議事概要</p>	<p>○議事（１）～（３）</p> <p>各講師がパワーポイントを使用し、配布資料について説明。質疑応答はなし。</p> <p>（１）の説明において、平成 31 年度の調査結果報告会は平成 32 年 6～7 月頃を予定していることが示された。</p> <p>○議事（４）</p> <p>要望事項 2 題については提案機関からの趣旨説明後、環境省または調査実施機関から回答があった。情報交換事項 3 題については提案機関からの趣旨説明後、有識者等から助言をもらった。</p> <p>①要望事項 1</p> <p>趣 旨：（北海道立総合研究機構環境科学研究センター）</p> <p>調査のスケジュールについて、試料配布から報告までの期間が短いので、報告日をのばしてもらいたい。（測定項目によって適切なスケジュールが異なるので、遅い方に揃えられないか。）</p> <p>回 答：（環境省）</p> <p>近年は 1 ヶ月程度分析に係る期間を確保しているはずであるが、今年度は項目によっては短くなり申し訳ない。来年度も 1 ヶ月程度は確保することを考えている。また、先ほど説明したとおり、1 ヶ月程度後ろ倒しにして実施することを考えている。</p> <p>②要望事項 2</p> <p>趣 旨：（山形県環境科学研究センター）</p> <p>ICP 質量分析法を用いた重金属分析時の前処理法について、明確な判断基準を規定してはどうか。</p> <p>回 答：（日本環境衛生センター）</p> <p>これについては資料（参加者からの質問と回答）の A6 で回答しているが、今後検討委員会で検討されることがあれば、当方から提案することを考える。</p> <p>（岡井氏）</p> <p>あらゆるパターンの試料に対応しなければならないので、JIS としてはこのように書かざるをえないと思われる。もし、試料ごとにまとめることができるのであれば JIS の検討委員会でやられると思う。ICP に関して、見ため的に問題がなければろ過せずにやっていることもあり、必ずろ過しろとというのは難しいところである。ただ、ろ過した方が良いというのは間違いない。作業効率を考え遠心分離してかける場合もあり、ろ過を規程に盛り込むのは難しいが、実際に現場で実施する際に、うちではこうやると決めることは問題ない。規程が改定される場合には、当方から意見を入れることも出来る。</p> <p>③情報交換事項 1</p> <p>趣 旨：（北海道立総合研究機構環境科学研究センター）</p> <p>各機関における大気 VOC 分析についての内標準物質の選定、濃度、検量線の作成方法、分析にあたり留意していることについて教示願いたい。</p> <p>助 言：（岩村氏）</p> <p>内標準物質としてトルエン d8 1 種類を使用している人が多い。トルエン d8 は、内標準の中では（原因ははっきりわからないが）バラツキが大きくなりやすい物質であると聞いたことがある。内標準のミックス（フルオロベンゼン、トルエン d8、クロロベンゼン d5）を使うのもひとつである。一般に内</p>
-------------	---

標準に何を使うかというときに、クロマト 1 本 40 分程度の時間であれば、時間の近さはそんなに影響がない。もし、複数を試すのであれば補正が一番うまくいくものを選ぶということもある。内標準の濃縮量が少ないと精度が良くない。絶対検量線法で定量しても検量線はまっすぐになっているかと思うが、時間による感度変更の補正は出来ない。研修所の研修ではフルオロベンゼンで濃度 SN100 以上にする。濃度は 500 以上あれば問題はないが、高すぎるのも良くないかと思われる。

④情報交換事項 2

趣 旨：(宮城県保健環境センター)

VOCs 分析に係る検量線用標準試料及び内部標準試料の調製方法、標準試料の調製濃度、実際に検量線を引く際に採用する濃度、調製頻度、使用している標準原ガスについて教示願いたい。

助 言：(岩村氏)

アクリロニトリルはシリンジに吸着しやすい物質であるから、共洗いの回数数を 5, 6 回とかたくさんとる、シリンジを手で温めて吸着を押さえるというやり方で作られるとよりよいと思う。

⑤情報交換事項 3

趣 旨：(宮城県保健環境センター)

水素化物発生 ICP 発光分光分析法を用いて海水等のひ素の分析をする際、どのような前処理方法を行っているか。また、他の分析方法を採用している場合は、その一連の分析方法について教示願いたい。

助 言：(岡井氏)

海水にはヒ素が入っているので希釈して行うのもひとつの方法である。まずは希釈や過酸化水素を使った備考法を試してもらった方が良いかと思う。

平成30年度環境測定分析統一精度管理北海道・東北ブロック会議 出席者名簿

所属		職名	氏名	備考
機関	部署			
国立研究開発法人 産業技術総合研究所	地質情報研究部門 地球化学研究グループ	グループ長	岡井 貴司	有識者(環境測定分析検討会統一精度 管理調査部会検討員)
環境省環境調査研修所		教官	岩村 幸美	有識者(環境測定分析検討会統一精度 管理調査部会検討員)
国立研究開発法人 国立環境研究所	資源循環・廃棄物研究セン ター	主任研究員	山本 貴士	有識者(環境測定分析検討会統一精度 管理調査部会検討員)
環境省	水・大気環境局 総務課環境管理技術室	室長補佐	望月 敦史	環境省職員
(一財) 日本環境衛生センター	環境事業第二部	課長代理	佐々木 秀輝	調査実施機関職員
(一財) 日本環境衛生センター	環境事業第二部	係長	梶 史生	調査実施機関職員
地方独立行政法人 北海道立総 合研究機構 環境・地質研究本 部 環境科学研究センター	環境保全部	主査 (大気環境)	大塚 英幸	
青森県環境保健センター	公害部	研究管理員	工藤 香織	
岩手県環境保健研究センター	環境科学部	専門研究員	本村 華子	
	地球科学部	専門研究員	大橋 慶太郎	
	検査部	専門研究員	村上 翔子	
秋田県健康環境センター	環境保全部 環境保全班	主任研究員	松淵 亜希子	
山形県環境科学研究センター	水環境部	専門研究員	千島 克隆	
福島県環境創造センター	調査・分析部 環境調査課	主査	渡邊 由貴	
新潟県保健環境科学研究所	調査研究室大気科学科	専門研究員	皆川 恵	平成31年度開催機関
	調査研究室水質科学科	主任研究員	大野 峻史	
	調査研究室情報調査科	主任研究員	鈴木 美智子	
札幌市衛生研究所	生活科学課水質環境係	技術職員	藤沼 政憲	
仙台市衛生研究所	理化学課	主査	東海 敬一	
	理化学課	主査	石川 千晶	
	理化学課	主任	白寄 りか	
新潟市衛生環境研究所	環境科学室	主査	齋藤 真	
郡山市環境保全センター	調査分析係	技師	落合 孝浩	
いわき市環境監視センター		技術主任	布施 清人	
宮城県保健環境センター		所長	宮城 英徳	
		副所長	泉澤 啓	

	企画総務部	次長（班長）	岡崎 聡司	
	企画総務部	上席主任研究員	横関 万喜子	
	企画総務部	研究員	鈴木 李奈	
	大気環境部	部長	佐藤 健一	
	大気環境部	研究員	佐久間 隆	
	大気環境部	技師	高橋 美玲	
	水環境部	部長	松本 啓	
	水環境部	総括研究員	藤原 成明	
	水環境部	上席主任研究員	後藤 つね子	
	水環境部	副主任研究員	赤崎 千香子	

(別紙)

【環境測定分析統一精度管理北海道・東北ブロック会議開催にあたっての要望】

今回のブロック会議開催担当機関として、今後のブロック会議の円滑な運営のため、下記の2点を要望します。

- 1 環境測定分析統一精度管理ブロック会議開催要領の送付時期を早めていただきたい。特に、今年度のように、時間配分及び合計時間に変更される場合には、開催時間の検討が必要となることから、事前に教えていただきたい。
- 2 遠隔地からの出席者の帰路の予定もあるので、あらかじめ示された時間で進行したいので、各講師の説明・報告時間の厳守をお願いしたい。または、現実に即した会議時間を設定願う。